

財政非常事態宣言解除後、そして古賀市長就任後初となる2026年度一般会計予算については、賛成の立場で意見を申し上げます。ただし予算編成において市長が通達で示された「挑戦と組織力」は、予算審議を経てもなお感じ取ることができませんでした。市長が何をこの予算で進めようとしているのか、日野市のかじ取りをする市長がみえなかったことは残念です。今後に期待し、以下事業について意見を述べます。

まず、財政非常事態宣言の象徴ともなった3.4.24号線の工事再開に向けた修正設計にかかる経費以外では、宣言が解除されたことによる市民生活の変化は感じられません。物価高対策については、所信表明での質疑への答弁で6月補正で対応とのことですが、明日で廃止となる「高校生奨学金制度」に替わる事業についても、対応を求めます。

2030ビジョンでは、「しあわせのタネを育てあう日野」が示されていますが、それをどのように応援していくのでしょうか。日野市には市民の活動を後押しする事業が弱いと感じています。今こそ平和事業が必要なときに、一年の休止を経てもなお、市民活動事業が復活しなかったことは非常に残念に感じていますし、学生からも残念という声が届いていると聞いています。ぜひ次年度は再構築の期間とすることを求めます。

また、産後うつや児童虐待の具体的な予防策としても有効性が高いと評価してきた、他市にはない産後世帯配食サービスが終了することも残念です。このように小さな予算を削減して積み重ねる一方で、作りかけた道路をとめて約7000万もムダに出費しているのですから矛盾しています。

これから策定される中期財政運用方針では、再びこのようなことがないように、お金の回し方をしっかり検討して取り組んでください。財政援助団体補助金の見直しに関する質疑に対し、市長からは「しがらみにとらわれていたのでは改善に進まない」と力強い答弁もありました。個別事業の最適化に留まらず、日野市にとっての最適化という視点で、丁寧に協議を進めていただきたいです。

目の前のことだけでなく、中長期の視点でみるのは、財政運用だけでなく事業評価もです。予算審議は数字を追うだけのものではない、それがどのように種をまき、育て、実を結ぶかです。予算編成や事業評価の段階で「この施策はジェンダー平等にどう寄与するか」という問いを立てる「ジェンダー予算」については「予算編成方針などで取り組んでいけたら」との答弁を歓迎します。まずはパイロット事業からでも取り組んでいただくことを求めます。

予算委員会では「持続可能」という言葉が頻発したように感じます。SDGs未来都市日野市にふさわしい、美しい響きですが、それが「事業縮小」の便利な言い訳に使われてはいないでしょうか。もともとは「将来の世代のニーズを満たしつつ、現在世代のニーズも満たす開発」という考え方からきています。

この観点から、ここからは私も含め質問する委員も多かった「緑の基本計画」の改定について述べます。

日野ネットは、計画改定にあたっては専門家の登用を求めていましたが、それは予算化されていないのは残念に感じております。債務負担行為で1400万かけて改定する「みどりの基本計画」については、7月に策定業者と契約を結ぶスケジュール感ですすめていくとありました。調査は計画策定費用に含まれると答弁がありました。どこまでの調査なのか。また、これまでみどりの管理に携わってきた市民団体、外郭団体の仕事を洗い出し、テーブルにあげ、日野市のみどりをどうデザインし、誰が何をどのような形で担うのか、あらゆる角度での検討が必要と考えますので、そのようなワークショップも仕様を含めることは必須と考えます。計画改定を通して、それこそ持続可能な体制づくりが求められるからです。日野市には積み上げてきた年次報告環境白書があります。検証に活かしてください。

市民の悩み事で寄せられる声が多いのは落ち葉です。落ち葉をお金に変える仕組みをつくれないものだろうか、本気で循環型経済をまわしていくことにもつなげられないか、グリーンインフラを活かしたまちづくり、こういうことも視点として組み込んでいただきたいわけです。事業者がプロポーザル方式で魅力的な提案をしてきてくれるか、それを引き出す仕様書となるようお願いします。そのためには日野市がしっかりとした軸をもっていないと、流されてしまいます。

「緑と清流」に価値を見出し日野市に越してくる人が多いと感じます。市民意識調査でも日野市のよいところのダントツ1位は自然環境です。

市税を伸ばすには、選んでもらえるまちにならないといけません。ですから、ここに日野市の再生のカギがあるといっても過言ではないと考えます。

最後に、3・4・24号線工事再開の質疑の場で、担当部長が「少ない声も受け止め、実現させていく」という旨の発言があったかと思いますが、心からそう思います。ここにいる全員が、それぞれ市民の声を背負って望み、限られた予算をどう使うか議論し、市民はそれを見えています。しかし資料がないと何のことだがよくわかりません。

本議会では早い時点で予算書がHPにアップされていたことは評価します。今後はぜひ、歳入で質疑した役目を終えた学習者用端末をリサイクル活用し、傍聴する市民が活用できるようにすることを提案し、以上意見とします。